

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

- 「ひびきあい」
- 自ら学び、自ら考え、つくりだす力を育てます【知】
- お互いに認め合いながら、共に伸びていこうとする態度を育てます【徳】
- たくましい心と健やかな体を育てます【体】
- 社会とのかかわりを大切に、共に生きる態度を育てます【公】
- さまざまな変化に柔軟に対応できる力を育てます【開】

教育課程全体で育成を目指す資質・能力

- ・自ら学び、自ら考え、行動する力
- ・他を認め、協働して課題解決をする力
- ・社会とのかかわりを大切に、共に生きる力

具体化した資質・能力

- ・思いや考えを表現する力⇒思いや考えを伝えあう力⇒考えを出し合って新提案する力
- ・相手の思いを受け止めて聞く力⇒互いの考えの違いへの気づき⇒伝え合うことで自分の考えを深化させる力
- ・身近な地域への愛着⇒地域を愛する気持ち⇒地域に貢献する気持ち

中期取組目標

- 多様な人との出会いや学び合いの中で、お互いの思いや考えのよさや違いを感じたり考えたりしながら、よりよい考えをつくり出したり、自分の考えに生かしたりできるようにします。(認め合う⇒生かす⇒共につくり上げる)
- ・旭中学校併設型小学校として、学習・生活の両面で中学校とのつながりや関わりを大切に教育活動を行います。
- ・主体的、対話的に学ぶ、子どもが主役の授業づくりを推進します。
- ・お互いに認め合いながら、共に伸びていこうとする態度の育成を図ります。
- ・地域の「ひと・もの・こと」とのつながりを意識し、地域に生きる思いや態度を育てます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業づくり	(1)子どもが自ら調べたい、考えたい、話したいとなる課題の設定や展開の工夫をする。 (2)誰もが安心して学ぶことのできるよう、ペアや小グループでの話し合いを大切に授業展開を行う。 (3)各教科・領域で、身につけさせたい資質・能力を意識した授業力の向上を目指す。 (4)魅力的な「ひと・もの・こと」との出会いを目指して地域の材を発掘し、各教科・領域との関連付けを行う。
担当	授業づくり部

学力向上に関わる本校の状況

○令和3年度の全国学習状況調査(6年)



・学力に関しては、県平均を超えているが、学習に関する興味・関心としては平均を下回っている。  
・自己有用感に関しては、県平均と同じで、模範意識に関しては、平均を下回る。

○自己肯定感と学びに向かう人間性について

	RO.1	RO.2	RO.3
1 学習や生活で、友だちや先生に質問から自分の考えや気持ちを伝えることができた。	84	84	89
2 学習や生活で、友だちや先生に自分の考えをよく聞いてくれた。	90	90	91
3 授業の内容はよくわかりました。	93	91	91

授業では、一生懸命考えたり、その考えをグループやペアの友だちと話し合ったりして、自分の考えを深めてきた。今後必要な学力は、自分の意見を他者に伝える段階から、他者の意見を自分に取り入れ実行しようとする力に移行していく必要があると捉えている。そのために、誰もが自分の意見を持ち、主体的な学びを実現できる学習をより充実させることで、他者と認め合い協働して課題解決をする力の成長を促すことに繋がると考える。(令和3年度末児童アンケート経年変化の結果より)

今年度の目標

子ども達が互いに認め合うことができる授業づくりを行う

目標を実現するための具体的行動プラン

○小中合同研修会や一人一回の授業研究会を通して、職員が小中授業コンセプトについて共有するとともに、授業の中でペアやグループ活動を意図的・計画的に行う。  
○子どもたちの実態把握(自分の意見を言う、人の意見を聴こうとしている等)を丁寧に行い、職員同士での児童に関する情報交換を密に行いながら日々の授業に活かしていく。  
○横浜プログラムを活用して子ども達の社会的スキルの向上を行う。  
○子ども達が自分の意見を持ち、主体的な学びを実現できるように「総合的な学習」について研修を行う。(外部講師を招請し、立ち上げや進め方、単元構想作成に向けての見通し等について共有する。)

○上半期の授業実践を通して、子ども達が互いに「認め合う」具体的な姿について職員で改めて共有し、次年度の互いの意見を「活かす」姿についても検討を行う。  
○子どもたちの実態把握(自分の意見を言う、人の意見を聴こうとしている等)を丁寧に行い、職員同士での児童に関する情報交換を密に行いながら日々の授業に活かしていく。  
○地域人材や学習材の発掘のために、授業づくり部が中心となって、教師が街あるきや施設訪問を行う。発掘した材が子どもたちの学習課題とどう関わるのかを整理・検討する。  
○ICTを有効に活用し、より実践的な子どもたちへの支援に役立てる。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	(1)ペア活動・たてわり活動での異学年交流を通じて、相手を思いやる心を育成する。 (2)音楽活動や学校行事等を通じて、友達と同じ目標に向かう良さを実感できるようにする。 (3)子どもたちが個性を認め合いながら、居心地の良い学級・学校づくりを目指すようにする。 (4)多様な価値感にふれられるように、地域とのつながりを感じられる活動を取り入れる。
担当	人権・児童指導

豊かな心に関わる本校の状況

○中沢小学校児童のよさ  
～自己肯定感の推移～  
市学習状況調査「自分にはよいところがありますか」

	H27		R2	
	中沢小	市平均	中沢小	市平均
1年	81%	82%	87%	83%
2年	82%	80%	83%	81%
3年	82%	78%	72%	80%
4年	83%	78%	76%	79%
5年	64%	75%	79%	76%
6年	68%	74%	86%	76%

・自己肯定感を高める取組や小中授業コンセプトの設定し、様々な人とのかかわり、「聞いてくれた」「話せて良かった」という思いをもてるようになってきた効果が現れてきている。

～学校評価(令和3年度の児童アンケートより)～

	とても満足	やや満足	やや不満足	とても不満足
様々な活動に自分の役割を担って取り組めました。	70%	24%	4%	2%
たてわり・ペア活動では、ペアの友だちが安心して楽しめるように、しりとりや歌合戦などを楽しみ、仲間を応援して取り組めました。	63%	30%	5%	2%

・学校行事など、友だちとのかかわりに前向きに取り組んでいる子どもが多い。  
・合唱団の伝統と共に、歌うことが好きで、きれいな歌声を響かせることができる。

○中沢小学校児童の課題

・「伝えられている」に対して「聞いてもらえている」と感じている子どもの割合が低くなっている。  
・相手は相手、自分は自分、とそれぞれのよさを認めているものの、自分の考えに生かしたり、協働していこうとする姿勢に弱さが見られている。(令和3年度重点研考)

今年度の目標

自分もみんなも大切に心を育てる

目標を実現するための具体的行動プラン

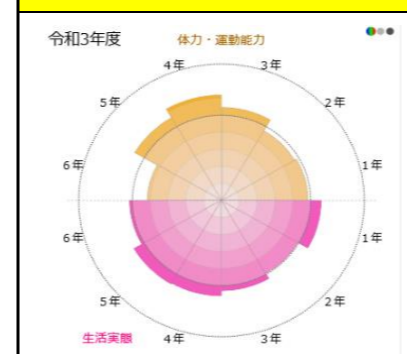
○年度初めの環境に緩やかな学校生活を送れるようなスタートプログラムの趣旨を共通理解し、つながりを感じるYPプログラムから取り組む。  
○横浜子ども会議の取組「居心地のよい学校づくり」に向けて児童の委員会活動と繋げて、子どもが主体的に取り組めるようにする。  
○YPアセスメント1回目の実施と社会スキルの設定。  
○年間を見通した社会スキルの設定を学年で組織的に取り組む。  
○学校生活についてのアンケートを行い、1回目の子どもとの教育相談を実施する。  
○人権研修を設定し、教職員の人権意識を高める。  
○たてわり活動で、異学年交流でかかわり合うよさを感じさせる。  
○学援隊の方を全校児童に紹介し、地域への愛着を高める。

○横浜子ども会議の取組の中間点で振り返る。改善や修正案を全校児童に投げかけていく。  
○YPアセスメント2回目の実施。個人プロフィール票を活用した児童理解を深める。  
○児童生徒交流会で小中学校の子どもたちと交流でかかわり合えるようにする。  
○運動会、音楽集会に向けて、学年等で子どもたちが同じ目標に向けて取り組む良さを感じ合い「ひびきあい」を実感できるようにする。  
○人権週間を設定し、日常のテーマに即した切実感のある話題から、人権意識を高める。  
○全市一斉のアンケートを実施し、2回目の子どもとの教育相談を実施する。  
○子どもたちの自己肯定感や友だち同士のつながりについての意識についてアンケートを実施、次年度への方針に生かせるようにする。  
○地域の方への感謝を伝える活動を設定する。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	(1)「食」の大切さや、食に関する興味・関心を高める食育の推進を行う。 (2)元氣アップタイムや学校保健委員会の取組を通して自己の健康に対する意識の向上を目指す。 (3)身につけさせたい資質・能力の向上を図るための体育科学学習を充実させる。 (4)運動委員会や集会委員会による取組や集会活動による健康体力の向上を目指す。
担当	健康食育部

健やかな体に関わる本校の状況



○体力は、横浜市と比較しても同等程度といえる。中でも、シャトルランは、どの学年も概ね平均よりも高く、持久力はあると考えられる。  
○立ち幅跳び、反復横跳びは平均よりも低い学年が多く、今後の課題として捉えることができる。

○朝食は8割以上の児童が毎朝とっており、睡眠時間も確保できている。  
○タブレットに接続している時間は、横浜市の平均と同等といえる。

○全体的には、体力が二極化している。また、全体的には生活習慣が身につけている児童が多いが、一定数で同じ児童が朝食を食べていない様子が見える。

(新体力テスト結果より)

今年度の目標

健康に対する関心を高め、運動を楽しむ感覚を味わわせる

目標を実現するための具体的行動プラン

○元氣アップタイムを活用して、養護教諭や栄養教諭から全校指導を行うことで、食事の大切さや健康についての関心を高める。  
○新体力テストの過去の記録を提示し、児童自身が結果を比較することで自分の体力や健康へ意識を向ける。  
○室外、室内でできる「体づくり」を学級で取り入れ、継続的に体を動かす時間を設ける。  
○各学年で昨年度の体力テストの分析チャートを活用し、日頃の体育学習の充実役立てる。

○元氣アップタイムを活用して、養護教諭や栄養教諭からの全体指導を行うことで、食べ物の働きや体の発育について知り、自分の健康を見つめ直す機会とする。  
○運動委員会を中心とした活動への取組を行い、体力の向上に努める。  
○室外、室内でできる「体づくり」を学級で取り入れ、継続的に体を動かす時間を設ける。  
○学校保健委員会の取組を年間を通して行い、振り返りを行うことで、自己の健康と向き合う機会を設ける。